



NK、共通構造規則対応システムの最新版公開

NK、共通構造規則対応システムの最新版公開

日本海事協会(NK)はバルカーとタンカーのための共通構造規則(IACS Common Structural Rules for Bulk Carriers and Oil Tankers、以下CSR BC&OT)に対応した構造設計支援システム「PrimeShip-HULL(HCSR)」の最新版(Ver.3.0.0)を公開した。

国際船級協会連合(IACS)によるCSR BC&OTは、バルカーとタンカーのそれぞれの共通構造規則(CSR)を調和させた規則として、長さ90m以上のバルカーと、長さ150m以上の二重船殻タンカーに適用される。

NKは造船設計者の要望を基に、従来の船殻構造評価システムに比べ強力な設計支援機能を備えた「PrimeShip-HULL(HCSR)」を開発し無償提供している。CSR BC&OTに対応したシステムを昨年7月にリリースしているが、今回さらに機能強化した最新版を公開した。今年2月にIACSが公開した修正にも対応している。

主な特長は次のとおり。

- ▼算式計算ソフトと商用CADシステムとのデータ連携を強化し、設計プロセスの一層の合理化を可能にした。
- ▼3次元船舶設計システムとして広く用いられているNAPA社のNAPA Steelとのデータ連携範囲を船首尾部の全部材まで拡大。NAPA Steelモデルを全船にわたって算式計算ソフトへ取り込むことが可能となり、モデルの作成時間を更に短縮することが可能になった。
- ▼直接計算ソフトにおいて詳細FEモデル作成機能の強化を行うとともに、全船FEモデルから規則に準拠したホールドモデルへの分割、解析、評価を自動で行う一括解析機能を新たに設けた。これまでホールドごとに行っていた設定作業や評価作業を全船FEモデル上で一括処理することで、直接強度計算の作業時間を大幅に短縮するとともに、入力ミスを削減できる。

[記事一覧に戻る](#)[この記事を印刷する](#)